

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	地理学概論B (Introduction of Geography B)		
ナンバリングコード	E21514	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 教職科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	選択:教職 教職関係科目(選択必修):中学校教諭一種免許状(社会) ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	EK00451	クラス名	-
担当教員名	土居 晴洋		
履修上の注意、履修条件	本授業の履修にあたり、高校在学中の「地理」履修の有無は問いませんが、自らが暮らす地域や世界各地で生起する諸事象に対して、日頃から興味・関心を持つように心がけて下さい。 正当な理由のない、遅刻・欠席・途中退席は認めません。また、座席指定は行いませんが、適切な間隔を空けて着席するとともに、授業に集中し、ディスカッション等の活動への積極的な参加を求めます。		
教科書	『新詳地理資料COMPLETE2023』帝国書院		
参考文献及び指定図書	適宜紹介する。		
関連科目	地理学概論A, 地誌学		

○基本情報							
授業の目的	自然現象や人文社会現象を時間と空間の枠組みの中で理解することが地理学の目的であることを確認し、複雑に変化を遂げる現代社会を地理学的視点から解釈するための理論や方法論を提示します。高校までの学校教育の「地理」の影響で、暗記科目ととらえられがちな「地理」のイメージを払拭するとともに、地理学的な見方・考え方の基礎を身につけ、身近な地域からグローバルな事象までを自ら観察し、読み解くことができるようになることを目指します。これは本学のディプロマ・ポリシーに謳う「自然や文化・伝統など幅広い視野」を持ち、「時代の変化を捉える」力を養うことも意図しています。 本授業単独でも地理学の全体像を体系的に理解できるような構成としていますが、『地理学概論A』と併せて受講することで、より地理学をより体系的に、またより詳細に理解できるようになります。						
授業の概要	地理学の概念や構成、見方・考え方を地図の読図技法など、地理学を学ぶうえで不可欠な項目を最初に学びます。本授業では人文・社会科学から自然科学にまたがって広がる地理学の領域を俯瞰的・体系的に理解できるよう、人間社会の諸現象の基盤である自然環境(地形、気候)のメカニズムを学びます。また、地理学的思考を特徴付ける事象の空間的把握を行うための地図・地形図の基礎を学びます。 その後、現代における第1次～第3次産業の諸現象の空間的特質とその形成メカニズムや背景的要因を考察していきます。また、本授業では、個別具体的な事象の事例を、主として外国に求めることで、現代グローバル社会の学問として地理学を理解します。なお、取り上げるトピックによっては、日本国内の事例を取り上げることで、マルチスケールの地理学的思考力を養成します。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「ディスカッション、ディベート」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	日常的な事象を認識し、地理学的な関心を持つことができる。		5点	5点
【知識・理解】	地理学の概念や地理学の基本的な見方・考え方を習得している。	30点	5点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な主題図や統計資料の読解と考察を行うことができる。	20点	5点	5点
【思考・判断・創造】	地理学の見方・考え方をを用いて日常的な事象を考察することができる。	10点	5点	5点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
対面・オンラインの開講形態に関わらず、双方向授業を行うために、あらかじめ指定したページの教科書の予習が行われていることを前提にします。また、授業においては、教員側から受講学生に対する質問への回答や、逆に学生側から教員側への疑問や質問が出されるか否か、ディスカッション等の活動への参加状況も評価の対象とします。 ワークシートの末尾に、授業で理解したこと、疑問・質問を記入する欄を設けますので、授業において理解できなかったポイント等を記入して下さい。ワークシート内の課題の理解状況を把握したうえで、記入された質問を加えて、次回授業において補足説明を行います。

○その他
指定した範囲の教科書を授業前に読み、理解できることと、理解できないことを明確にして下さい。その際に、地図や写真、図表等から何が読み取れるかをよく考えて下さい。授業においては、理解できなかったことを積極的に質問して下さい。授業後はワークシートの課題や解説を加えた教科書の図表や文章を中心に復習を行い、疑問等は提出前にワークシートに書き込んで下さい。 授業において使用したワークシートは授業後にjpegまたはpdf形式でユニパ上に提出して下さい。授業で使用したワークシートは手元に残りますので、授業後の復習や期末試験への準備として活用して下さい。

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	地理学概論B (Introduction of Geography B) 土居 晴洋	授業コード	EK00451
学修内容				
1. 地理学とは何か				
地理学とはどのような学問なのかを理解することを目的とする。「地理」は中学や高校において地理(地理的分野)として学んでおり、その時には地名や産物、地形用語などを暗記する科目というイメージがあったかもしれない。しかし、大学で講ずる「地理学」をそのイメージの延長で捉えることは適切ではない。現代の地理学は、人文社会科学や自然科学などの隣接諸科学と同列のサイエンスの一領域である。地理学の基本的な枠組み、ものの見方や考え方があることを、具体的な事例を通して理解する。				
	予習	高校までで学んだ「地理」の楽しかったところ、苦手だったところを振り返る。		約1時間
	復習	高校までの「地理」と大学で学ぶ「地理学」は何が同じで何が違うのかを整理する。		約1時間
2. 地理学の構成と地誌学				
地理学の研究対象は、日々の暮らしから地域や社会にある産業や文化といった人や社会に関わる事象に加えて、気温や降水などに組合せとしての気候や扇状地や段丘といった地形の特徴などの自然現象や自然災害など、極めて多岐にわたる。また、大分県や中国などの県や国家などの地域が持つ特徴に注目する地誌学も地理学を構成する重要な領域である。地理学が持つこのような対象の多様性を知るとともに、地理学として一つの学問領域を形成している必然性や論理を理解する。				
	予習	地理学の見方・考え方によって、自分の身近な地域の特徴を考える。		約1時間
	復習	講義を踏まえて、人文社会現象・自然現象から一つ選び、その時間的・空間的特徴について考える。		約1時間
3. 地球の動きと地形形成のメカニズム				
地球の表層で起こっている現象について理解するためには、気候や地形などの自然環境を学ぶ基礎的知識が必要である。ここではプレートテクトニクス理論を理解するために、地球深部の構造や地質年代を概説したのちに、同理論による大陸の移動やその結果生じた大地形について学ぶ。また、地震による自然災害を理解する基礎として、活断層の形態とメカニズム、また活断層の動きによって生じる特徴的な地形を理解し、日本においてはこれらの地形が身近にごく普通に存在していることを知る。				
	予習	教科書12-16, 18, 20-21ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
4. 世界の気候区分				
地域区分は地理学の重要な研究手法の一つである。つまり、何らかの指標で類似している、あるいは逆に似通っていない、といった基準を設定し、特質の似通った地域を設定する手法である。ここでは前時で学んだ気候のメカニズムを基礎として、気温と降水量を指標とする、ケッペンによる世界の気候区分の方法を理解する。また、ケッペンの気候区分において、世界の気候区分の地域的分布の状況とそのような分布が形成されるメカニズムを理解する。				
	予習	教科書46-57, 320ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
5. 世界の環境問題				
今や地球温暖化は現代世界が直面する最大の課題といってもよいほどである。地球温暖化は、人類の影響を受けない地球自体の変化の結果とする主張もあるが、人類の活動、特に産業革命以降の近代化の結果であるとされる。なぜ、このような気候変動が発生しているのか、またそれが世界各地でどのような影響を及ぼしているのかを考えていく。森林破壊や砂漠化、大気汚染など、人類の経済活動などの影響の結果として現れている現象についても理解する。				
	予習	教科書76-86ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
6. 気候変動と自然災害				
気候はわが国では春夏秋冬の四季の変化として現れ、経年的に一定のリズムを持っている。そのような中であって、ヒートアイランド現象など局所的な現象が発生し、社会生活に大きな影響を与えている。また平均気温が大きく変動する年が発生するなど、これまで人類が経験してきた規則性を逸脱する現象が見られる。地震や火山災害を含めて、これらがどのようなメカニズムで発生しているのか、またどのような場所で問題が大きくなるのかについて考えていく。				
	予習	教科書66~69ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
7. 世界の人口・人口の移動				
世界の人口は21世紀半ばには100億人に達すると予想されている。産業革命以降、世界の人口は急速に増加し、現在においては発展途上の国々を中心に依然として増加傾向が著しい。人口に関わるいくつかの基本用語を確認し、このような人口増加のメカニズムとその発展段階を理解する。また、世界的な人口の分布やその背後にある人口移動、近年注目されている豊かな暮らしを実現するための取り組みを考える。				
	予習	教科書196-198ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
8. 世界の人口問題				
世界を大きく先進諸国と発展途上国に分けるとすれば、そこに見られる人口問題は大きく異なる。人口問題を論ずる時に必須な概念である合計特殊出生率を理解したうえで、両地域を対比していく。発展途上国に見られる人口問題には、単に人口が多いということだけでなく、質的な問題がある一方、先進国の事例の一つである日本の人口問題として、少子高齢化がよく知られている。わが国ばかりでなく、先進諸国を中心に普遍的に見られる少子高齢化はなぜ起こるのかを考える。				
	予習	教科書199-201ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間

○授業計画	科目名 担当教員	地理学概論B (Introduction of Geography B) 土居 晴洋	授業コード	EK00451
学修内容				
9. 農業の発達と類型				
第一次産業は、自然の資源に直接働きかけることで、食糧や木材などの資源を得る産業である。その中でも農業は食糧資源を生産するという点で不可欠な存在であるとともに、地域の文化を形作る基礎となってきた。世界的に見れば、気候や地形などの自然環境や地域に生じた歴史などによって、その在り方には地域的差違が大きい。機械等に頼らず、地域の自然条件に強く影響される伝統的な農耕から、資本を投下することで自然条件の制約を小さくする近代的農業まで多様であることを理解する。				
	予習	教科書85-95ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
10. 世界の食糧問題				
前時まで自然環境やその制約を強く受ける第一次産業を中心に、その現状や背景を考察してきた。その締め括りとして、食糧資源の量と質、食糧を必要とする人間の数と質のバランスとして、食糧問題を捉え、その地域的差違や課題を考える。また、そこには経済的豊かさだけでなく、文化のグローバル化による影響があることを認識し、私たち一人一人の生活の在り方が世界の食糧問題と直結していることを理解する。				
	予習	教科書128-129ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
11. 工業の発達と立地				
産業革命は様々な留まらない影響を人類に与えたが、製造業を中心とする工業の発達は世界的な規模で社会や暮らしのあり方を一変させた。現代の工業製品には様々な種類があり、それぞれ技術革新と国際的な国際的・国内的な地域間連携がその発達の鍵を握っていた。日常的には、手元にある工業製品しか見ていないが、手元に届くまでに多くの工夫の積み重ねがあり、国際的なモノや人、情報の流動の中で作られていることを理解する。				
	予習	教科書148-149ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
12. 世界のエネルギー資源				
エネルギー資源を抜きに近年の歴史を語ることはできない。世界的な人口増加と経済発展によって、エネルギー資源の消費は加速度的に増加しているにも関わらず、空間的に偏在しているため、それを巡って世界では様々な動きが生まれている。エネルギー資源の中にはレアメタルのような希少資源で、近年になって産業発展における重要性が高まりつつ天然資源もある。また、原子力や再生可能エネルギーなど、現代世界の動向を左右するものもある。これら資源と我々の生活や社会との関連を考えたい。				
	予習	教科書130, 131-133, 138, 144, 145ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
13. 現代世界の国家関係				
世界にはたくさん国があります。私たちの暮らしはさまざまな組織や枠組みの中で営まれています。その中でも最も重要といっているものが「国」です。人々の暮らしに非常に重要な意味を持つものが国ですから、それぞれの国の規模や位置、自然環境や歴史などに応じて、さまざまな意志を持つこととなります。世界はそのような国がともに生きる空間なので、そこには対立や連携が生まれます。国を繋ぐものは何か、またそこに生まれる課題は何なのかを考えます。				
	予習	教科書192, 193, 218, 220, 223, 256, 257ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
14. 都市の発達と地域構造				
多くの人が都市に暮らす現代社会では、都市とは何かを理解することが重要である。なぜ都市が生み出されたのか、どのような都市があるのか、地域による都市のあり方に違いはあるのかについて考える。また、世界には無数の都市があるが、その空間的配置や階層には規則性が見られる。一つの都市を取り上げると、都心から郊外に向けて広がる地域構造が見られ、そのことが私たちの日常生活を様々な側面で規定していることを理解する。				
	予習	教科書205-207, 271ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
15. 余暇と観光業				
私たちの暮らしにおいて、勉学や就業活動、就寝や飲食などの活動とならんで、観光を含む余暇活動も人が社会において生きていくためには不可欠なものである。一日の中あるいは年間で考えたとき、人は余暇や観光のために、なにがしかの場所で、一定の時間を過ごしている。現代社会において、このような余暇や観光も第3次産業の重要な要素であり、それらがどこに、どのようにあるのかは、地域の在り方を大きく規定するものである。				
	予習	教科書184-185, 217ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約1時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約1時間
16. 期末試験				
期末試験				
	予習	教科書および授業内容をしっかり復習する。		
	復習			